

大原神社

大原神社は、イザナミノミコトとその 2 人の子供、太陽の女神であるアマテラスオオミカミと月の神のツクヨミノミコトが祀られた、もともと、852 年に建立された神社ですが、現在の建物は 1796 年に建てられたものです。大原神社には 35 の絵馬の印象的なコレクションがあり、本殿と屋外の絵馬殿で見ることができます。また、江戸時代（1603 年～1867 年）、明治時代（1868 年～ 1912 年）の出産・育児に関する資料もあります。

産屋

産屋は、かつて出産の場所として使用されていた小さな茅葺き小屋です。入り口は神社に面しているので、母親は陣痛中に神から力を得ることができたとされています。内部は土間になっており、使用の際には 12 束の稲藁が敷かれます。奥には天井からぶら下がっている力綱（出産時に母親が持つ縄）があります。また縄の前には、白い紙の飾りのついた砂の小山があります。これは「子守砂（こやすのすな）」（出産しやすくなる砂）と呼ばれ、演技のいい物として神社でも授与されています。記録によると奈良時代（710 年～794 年）には、産屋が一部の地域に存在していたことが示唆されています。しかし産屋は戦後には時代遅れになり、1965 年の法改正により、事実上使用が禁止されることになりました。